

学校教育方針		中・長期目標				
定通の和を尊び、理想の追求を象徴する校章と校歌に示された精神をもとに、 1. 知性の涵養 2. 品性の陶冶 3. 心身の練磨を目的とする。		「心あらたな学び直し」、「限られた時間を活かしての学び」、「働きながらの学び」を願う生徒が安心して学習できる環境をつくり、社会の一員として生きる力を育成する。				
		今年度の重点目標				
		1. いじめ、暴力を絶対に許さず、生徒一人一人を大切に指導の実践 2. 単位修得率向上と基礎学力を身に付けさせるための学習指導の工夫・改善 3. 社会の一員として生きる力を育成するためのキャリア教育の実践				
分野	重点項目	評価の観点	評価	成果と課題	改善策	
全般	キャリア教育の推進	1	自己肯定感や他者と関わる力を育むため、教科指導・「総合的な学習の時間」・行事等の学校諸活動の中で、キャリア教育的観点に立った体験活動を経験させることができたか。	B	進路係・特別支援委員会が協働して、キャリア教育関連の講座を年度内に2回開講できた。	進路指導の段階に応じ、短期的・長期的指導を組み合わせる。講演会や体験的活動を組み込むことも検討する。
		2	課題を点検し、生徒の実態に即して改善することができたか。	B	単位認定までのルールについて見直しが必要な時期がきている	職員内で議論を深め、実態に合った指導や学校設定科目等の新設を検討していく。
学習指導	教育課程	3	添削指導や授業において、わかりやすい説明を心がけ、生徒の興味関心を引き出すことができたか。	B	授業評価で受講者はほぼ全員から満足を示す回答があった。	今後も生徒の期待に応えるような学習指導をおこなう。また、出校日数や面接についても生徒の実態にあった検討をすすめる。
		4	個々の生徒の単位修得につなげられるよう、指導内容や指導方法の工夫、改善を図ることができたか。	B	限られた出校日内で積極的に面談機会を持ったが、生徒との対話機会は少ない。	
		5	学習意欲を喚起するための情報発信や支援ができたか。	B	補助プリント等は昨年度のものとは異なる内容のものとし、学習意欲を喚起する工夫をした。	
生徒指導	集団生活のルールとマナー	6	学校生活を送るうえでふさわしい態度やマナーを身に付けさせることができたか。(授業中のマナー、禁煙、学習室の利用方法)	B	スクリーン日には全職員による昇降口立ち番・巡視指導を徹底し、問題発生の抑制効果があった。しかし、昨年度までとは異なるタイプの入学生が増え、喫煙指導に加え、対教師への暴言等に苦慮した。	対話型の指導を継続するとともに、突発的な事象発生に備え、警察との連携もさらに強化する。
		7	バイクや自動車の通学許可制を導入し、交通マナーを向上させることができたか。	B	スクリーン日には全職員による昇降口立ち番・巡視指導を徹底し一定の抑制効果があった。しかし、昨年度までとは異なるタイプの入学生が増え、バイク・指導に苦慮した。	
	安全・安心な学校づくり	8	IDカード携帯を徹底させる他、立ち番や校内外の巡視によって、安心・安全な環境づくりに努めたか。	B	職員自らが率先してIDカード着用をし、生徒にも繰り返し指導したが、徹底にはいたらなかった。	極端に強い指導は通信制にはそぐわないが、粘り強い指導を継続していく。また、関係機関にも状況報告・相談をしながら、警察や法律の専門家等にも協力を要請し、連携していく。
		9	人権意識を育てるとともに、生徒の変化を見逃さず、トラブルの未然防止に向けた取組を行うことができたか。	B	担任間で生徒の情報を共有し、登校時の動きを丁寧に把握し、トラブルを未然に防止できた。	
相談支援	10	個々の生徒が抱えている課題を共有し、学習活動につなげる支援ができたか。	B	相談室担当者が一新されると同時に相談室環境が整えられ、より様々なタイプの生徒支援がおこなえた。	保護者へのカウンセリングが必要なケースでは、自治体の福祉課等との連携もすすめていく。	
進路指導	進学、就職指導の充実	11	個々の進路希望を把握し、本人の希望、適性に沿った指導ができたか。	B	様々な機会を利用し、進路関連の情報を提供した。また、個別の声掛けや面談により、卒業までの見通しや進路についての助言ができた。	進路を検討する以前の段階にある生徒も多いが、自立支援に向けた取組を今後も積極的にこなそう。
		12	進路ガイダンス等を通して、情報を提供し、上級学校や職業について理解を深めさせることができたか。	B	キャリアプランニングとしての総合学習Ⅲの新設は進路指導に役立った。	今年度新設したキャリアプランニングについては、年度をまたぎながら指導し、実際の進路実現につなげたい。
生徒活動	生徒自主活動の充実	13	生徒会や地区活動の活性化を図り、生徒が自ら計画、実行できるよう支援することができたか。	B	職員による懸命な支援により、活動参加者には確かな成長がみられた。核となる生徒が少なく、今後は組織維持に困難が生じることが予想される。	地区会・生徒会とも連携しながら、参加者が更に増えるように働きかけたい。
		14	生徒自身が清掃に取組む機会を増やし、校内美化に努めることができたか。	B	クラス・学年単位での清掃活動は充実したが、生徒の主体的な取組みに期待したい。	
学校運営	円滑な学校運営	15	学校全体の教育活動が円滑に進むよう、定時制との効果的な連携を図ることができたか。	B	転籍後の新旧・担任の情報交換方法に改善を加えたが、更に工夫の必要を感じる。	通信制課程と定時制課程の合同会議等も検討していく。
		16	生徒のデータ管理と正確な資料づくりにより、校務と各指導を円滑に進めることができたか。	B	データ処理担当者の分掌を配慮したことにより、例年よりもミスのない丁寧なデータ処理がおこなえた。	データ処理システムの簡素化に課題があり、作業の継続性維持のため、引継ぎを確実におこなっていく。
		17	校内施設、設備の不備を点検し、安全で、学習しやすい環境づくりのため、改善を図ることができたか。	B	校内施設の老朽化に伴い、工夫と環境整備の必要がある。	教室の床、窓枠等の整備について、継続して要望する
	18	本校に求められた役割を職員間で共有し、行事や学校運営全般にわたる適切な見直しや改善を進めることができたか。	B	係職員等を招き、本校定時制の特別支援体制について、通信制職員全員で研修会を持ち、理解を深めた。今後は、通信制について、定時制課程職員が理解を深める取組みも求めたい。	通信制・定時制が一同に会しての合同職員会の機会をはじめとして、本校職員全員が各課程の特色を正確に理解して活かすための情報交換機会を持つことを検討したい。	
開かれた学校づくり	19	情報誌「筑摩」やHPに掲載する内容の工夫改善を図り、わかりやすい情報を提供できたか。	B	担当者の工夫により、諸活動について生徒たちの感想を積極的に掲載するようになった。	情報発信に加え、記録としての役割を持つ本情報誌であるが、職員からの意見を集約して内容充実をはかりたい。	
	20	保護者や地域との連携強化を図る取組を行うことができたか。	B	昨年度に引き続き、PTA係と生徒会係が調整し、保護者の文化祭参加を実現した。7月には保護者との校内整備事業を、7月と11月には校外清掃活動実施により地域の美化に貢献した。	今後も通信制課程として可能な取組みを継続する。地域との共同作業については時間や場所の調整が難しい部分が多いが、少しでも連携を強化するための可能性を探りたい。	